



特別展「創立 100 周年記念 信濃橋洋画研究所 ー大阪にひとつ美術の花が咲くー」

会 期：2024 年 6 月 22 日（土）～ 8 月 25 日（日）10:00 - 17:00（入館は 16:30 まで）
休 館 日：月曜日（ただし 7 月 15 日（月・祝）、8 月 12 日（月・振休）は開館、7 月 16 日（火）、8 月 13 日（火）は休館）
観 覧 料：一般 800（640）円、大高生 500（400）円、中学生以下無料
※（ ）内は 20 名以上の団体料金
※ 高齢者（65 歳以上）および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方とその介護者の方は各当日料金の半額
※7 月 15 日（月・祝）は「ひょうごプレミアム芸術デー」として観覧無料
会 場：芦屋市立美術博物館
主 催：芦屋市立美術博物館
後 援：兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、朝日新聞神戸総局、神戸新聞社、NHK 神戸放送局、Kiss FM KOBE
助 成：公益財団法人 朝日新聞文化財団、芸術文化振興基金

【展覧会概要】

大正末から昭和初期にかけて、大阪が面積・人口ともに日本一の近代都市となった大大阪時代。その最中 1924 年、大阪市西区信濃橋交差点に「信濃橋洋画研究所」が誕生しました。前年にそろって二科会員となった気鋭の洋画家・小出檐重、黒田重太郎、鍋井克之、国枝金三が、東京や京都に比べて芸術の実らない地とされていた大阪で、洋画家を志す者の指導を目的に開設したものです。

本研究所での講習は、デッサンや油絵などの実技と、美術史や解剖学といった講義によって構成され、ここで学生から会社勤めの者まで幅広い層が学びます。彼ら研究生以外にも門戸を開き、全国から希望者が殺到した夏季講習会や、講習成果発表の機会となった研究所展（第 4 回から「全関西洋画展」）などの先進的な取り組みも次々に実施し、1944 年に閉鎖されるまでの約 20 年間に、多くの才能が輩出されました。自らが体得してきた洋画の技術を次世代に伝えるべく奔走する講師陣と、その教えを吸収しようとする研究生たちの活気ある交流によって、講師陣が目指した「大阪市にも一つの美術の花が咲く」*という文化的な土壌が、確かに醸成されていったのです。

講師の一人・小出檐重が晩年を過ごし、本研究生も集った芦屋の地で、創立から 100 周年の節目に開催する本展は、信濃橋に集った画家たちの作品を一堂に展観するとともに、彼らの回想や講習カリキュラムなどから、ここでの指導と学びの実態を再検証するものです。

本研究所が洋画界に吹きこんだ新風と花開いた成果をご覧ください、関西の洋画史へ理解を深めていただく機会となりましたら幸いです。

* 鍋井克之が第 1 回研究所展に寄せた文章より（『週刊朝日』第 23 号、1924 年 11 月 23 日、p.9）

【本展の見どころ】

（1）近代洋画の名品たち ー関西洋画壇を代表する 20 作家の 60 作品を一堂に展観。

信濃橋洋画研究所で初代講師を務めた小出檐重、国枝金三、黒田重太郎、鍋井克之の 4 者をはじめとする個性豊かな講師陣や、本研究所で学んだ画家たちは、当時、そしてその後の関西洋画壇を背負って立つ存在でした。

本展では信濃橋洋画研究所を起点に生み出された洋画の名品を、大大阪という活気ある時代背景のもと一堂に展観します。さらに近年新たに発見された小出檐重の作品や、公立美術館では初公開となる黒田重太郎作品も展示します。

（2）信濃橋洋画研究所に集った画家たちの言葉から、その活動の実態に迫る。

本研究所の取り組みは、これを後援していた『朝日新聞』や『週刊朝日』にて、記録写真や講師陣が寄せた文章によって随時紹介されていたほか、複数の研究生が回想を残しています。

本展では、これらの画家たちが残した文章や言葉から、本研究所での指導と学びの実態を検証紹介します。

（3）全国の洋画講習会の先駆け！夏季講習会の全容を明らかに

研究所開設の年から『週刊朝日』の後援で実施された**夏季講習会**は、研究生以外も参加でき、全国から希望者が殺到するほど人気を博します。**実技・学科講習**と**関西名勝地での風景写生実習**が十数日間にわたり実施されたこの講習会は、その後全国の美術団体や研究所が開催するようになる講習会の**先駆け**となりました。

本展では、**講習カリキュラム**や**小出檐重旧蔵の写真資料**、週刊朝日に掲載された講師陣の**報告**や**エッセイ**などから、この講習会の内容を詳しく紹介します。

（4）洋画を学ぶプロセスとは？ 一洋画家としての修業過程

小出檐重と鍋井克之は**東京美術学校**で、国枝金三と黒田重太郎は京都の画塾・**関西美術院**でそれぞれ絵を学びます。

このような当時の**洋画教育機関**の状況も踏まえつつ、**石膏像**や**人体モデルのデッサン**から、**油絵具による絵画制作**へと至る**洋画習得の過程**を、小出と黒田の初期のデッサンや資料によって紹介します。

（5）信濃橋から芦屋へ 一小出檐重を慕った画家たち

小出檐重に師事するため来阪、のちに書生となり小出家で暮らした**松井正**は、本研究所の開設当初からここで学びつつ講師陣の手伝いをするようになります。**長谷川三郎**や**山崎隆夫**、**仲田好江**らは研究所で学ぶ一方、1926年に**芦屋**へ転居した小出の**アトリエ**へも通い、直接指導を受けました。本展では、これらの画家たちと小出が**芦屋の地で結んだ師弟関係**について、彼らの作品および資料から紹介します。当館**前庭**に復元されている小出の**アトリエ**でも関連した**小展示**を行います。

【出品作家】

○初代講師を務めた画家たち：

小出檐重、国枝金三、黒田重太郎、鍋井克之

○研究所に学び、のちに講師となった画家たち：

古家新、松井正、田村孝之介、山本直治、浜田葆光、伊藤継郎、小出卓二、藤井二郎

○学んだ画家たち：

飯島一次、井上覺造、木村敏、高岡徳太郎、津高和一、仲田好江、長谷川三郎、山崎隆夫

【展覧会構成】 *変更する可能性があります。

プロローグ 結成前夜・1923年 一第10回二科展と関東大震災
 第1章 創立 一講師4人と大大阪
 第2章 洋画を学ぶということ 一講師たちの修業時代の作品から
 第3章 日々の講習
 第4章 発展 一集った研究生たちの活躍
 第5章 夏季講習会
 第6章 研究所展・全関西洋画展

【出品予定作品・資料】



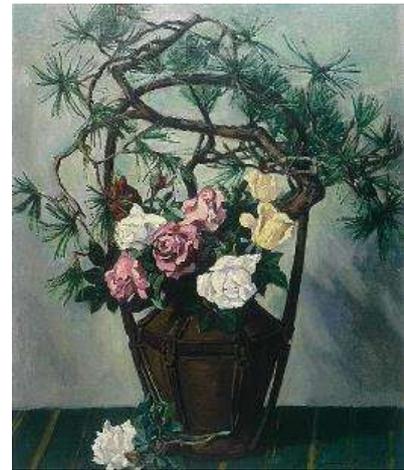
1



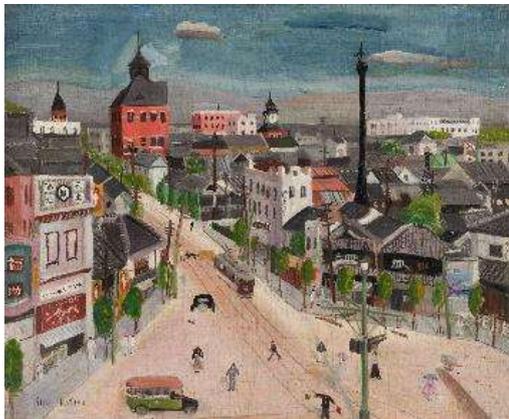
2



3



4



5



6



7



8



9



10

- 1 小出檐重《帽子のある静物》1923年 油彩、カンヴァス 公益財団法人 西宮市大谷記念美術館蔵 第10回二科展
- 2 国枝金三《都会風景1(信濃橋)》1925年 油彩、カンヴァス 大阪市立美術館蔵 第12回二科展
- 3 鍋井克之《鴨飛ぶ湖畔》1932年 油彩、カンヴァス 大阪市立美術館蔵 第19回二科展
- 4 黒田重太郎《不老長春図》1938年 油彩、カンヴァス 星野画廊蔵 第12回全関西洋画展
- 5 松井正《都会風景》1924年 油彩、カンヴァス 大阪中之島美術館蔵
- 6 長谷川三郎《トロッコ》1924年頃 油彩、カンヴァス 学校法人甲南学園 長谷川三郎記念ギャラリー蔵 白象会第2回展
- 7 小出檐重《素描(石膏デッサン)》1911年頃 木炭、紙 芦屋市立美術博物館蔵
- 8 信濃橋洋画研究所 開所式(1924年4月3日)
前列左より鍋井克之、小出檐重。中列左より国枝金三、黒田重太郎
- 9 裸婦デッサンに取り組む研究生たち(1930年頃)
- 10 第5回夏季講習会 滋賀県大津での風景写生実習(1928年8月)
左より国枝金三、鍋井克之、黒田重太郎

【関連イベント】 * 詳細は当館 HP へ

(1) 講演会「信濃橋の時代」

日時：6月23日(日) 14:00-15:30

講師：山野英嗣 (和歌山県立近代美術館 館長)

会場：講義室 80名 (どなたでも)

* 聴講無料 (ただし要観覧券)。申込不要、直接会場へ

(2) スライドトーク「洋画を学ぶ ー信濃橋に集った画家たちの交流とともに」

日時：7月27日(土) 14:00-15:30

講師：川原百合恵 (本展担当学芸員)

会場：講義室 80名 (どなたでも)

* 聴講無料 (ただし要観覧券)。申込不要、直接会場へ

(3) 街歩きイベント「大大阪を歩く・大阪近代建築めぐり」

日時：6月30日(日) 10:00-13:00

講師：高岡伸一 (近畿大学建築学部 教授)

場所：大阪市北浜～中之島付近の近代建築が残る地域

参加費：200円 (レクリエーション保険代等) + 各施設入場料実費

対象：小学生以上 20名

* 事前申込制、6月14日(金) 締切

お電話 (0797-38-5432) かメール (ashiya-bihaku@shopro.co.jp) にて、

【お名前・年齢・ご住所・ご連絡先】をお伝えください。(応募多数の場合は抽選)

* 詳細は追って当館 HP でお知らせします。

(4) 学芸員によるギャラリートーク

日時：7月6日(土)、7月15日(月・祝)、8月18日(日) 各回 14:00-

* 参加無料 (ただし7月6日、8月18日は要観覧券)。申込不要、直接会場へ

●お問い合わせ

芦屋市立美術博物館

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25 FAX : 0797-38-5434

企画内容に関して / 担当学芸員 川原百合恵 TEL : 0797-23-2666 (学芸直通)

画像貸出等、広報について / 総務課 乾紀子 TEL : 0797-38-5432 (代表)

◇ホームページ : <https://ashiya-museum.jp>

◇Facebook : 芦屋市立美術博物館 ◇X : @ashiyabihaku ◇Instagram:ashiyacitymuseum

●アクセス

①住所 芦屋市立美術博物館 〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25 TEL 0797-38-5432

②アクセス * バス情報が変わりました。

- ・ 徒歩：阪神電車芦屋駅から南東へ徒歩約 15 分
- ・ 阪急バス：阪神芦屋駅・JR 芦屋駅・阪急芦屋川駅から乗車、「緑町」停留所下車、徒歩 3 分

のりば ◇阪神芦屋駅 ①(南向き)のりばより系統 1 「新浜町」行き

◇JR 芦屋駅 南口のりばより系統 8 「芦屋浜営業所前」行き、または北側⑤のりばより
系統 1 「新浜町」行き

◇阪急芦屋川駅 ①のりば 系統 1 「新浜町」行き

※所要時間などの詳細は阪急バス時刻表でご確認ください。

- ・ 併設駐車場：1 時間無料

以 上

連絡先

E-mail: info@ashiya-city-museum.jp
FAX(0797)38-5434

ご希望の画像番号に○をつけてご返送をお願いいたします。本展をご掲載いただける場合、読者・視聴者プレゼント用招待券(10組20名様まで)もご用意しておりますので、お気軽にご連絡ください。

番号	作者・作品名・制作年・素材、所蔵先等
1	小出檜重《帽子のある静物》1923年 油彩、カンヴァス 公益財団法人 西宮市大谷記念美術館蔵 *第10回二科展
2	国枝金三《都会風景1(信濃橋)》1925年 油彩、カンヴァス 大阪市立美術館蔵 *第12回二科展
3	鍋井克之《鴨飛ぶ湖畔》1932年 油彩、カンヴァス 大阪市立美術館蔵 *第19回二科展
4	黒田重太郎《不老長春図》1938年 油彩、カンヴァス 星野画廊蔵 *第12回全関西西洋画展
5	松井正《都会風景》1924年 油彩、カンヴァス 大阪中之島美術館蔵
6	長谷川三郎《トロッコ》1924年頃 油彩、カンヴァス 学校法人甲南学園 長谷川三郎記念ギャラリー蔵 *白象会第2回展
7	小出檜重《素描(石膏デッサン)》1911年頃 木炭、紙 芦屋市立美術博物館蔵
8	信濃橋洋画研究所 開所式(1924年4月3日) 前列左より鍋井克之、小出檜重。中列左より国枝金三、黒田重太郎
9	裸婦デッサンに取り組む研究生たち(1930年頃)
10	第5回夏季講習会 滋賀県大津での風景写生実習(1928年8月) 左より国枝金三、鍋井克之、黒田重太郎

貴社名	
媒体名	(新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・その他)
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	TEL FAX
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着希望日	
招待券希望枚数	組 名分希望

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを当館までお送りくださいますようお願い申し上げます。取材・撮影希望の場合は事前にご連絡ください。

[広報用画像の使用について]

※画像データの使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。※広報用画像の掲載の際は、各画像のキャプションとクレジットを明記してください。※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたり、キャプション等の文字が画像にかぶらないようレイアウトにご配慮ください。

※上記以外でご希望の画像がございましたら、お問い合わせください。ご理解・ご協力のほど、よろしく願いいたします。

※今後、紙媒体のご案内を希望せず、メールでののご案内を希望される方はこちらに☑ください。 □